

## 阿蘇山の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター

＜噴火警戒レベル 3（入山規制）が継続＞

中岳第一火口では、本日（14 日）09 時 43 分に噴火が発生し、灰色の噴煙が火口縁上 2,000m まで上がりました。

本日、九州地方整備局の協力により実施した上空からの観測では、中岳第一火口周辺で変色域が認められ、南東方向に約 1.3km、北東方向に約 1.0km 広がっているのを確認しました。また、赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による観測では、変色域でやや温度の高い領域を確認しました。これらの領域は火砕流の痕跡の可能性があります。

今後も同程度の噴火が発生する可能性があります。

### 【防災上の警戒事項等】

火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

### ・噴火の状況（図 1、図 2）

阿蘇山の中岳第一火口では、本日 09 時 43 分に噴火が発生しました。弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口周辺に飛散するのを確認しました。噴火は現在も継続中です（21 時現在）。

### ・火口及び火口周辺の状況（図 1～図 3）

本日、九州地方整備局の協力により、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が上空からの観測を実施しました。中岳第一火口周辺で変色域が認められ、南東方向に約 1.3km、北東方向に約 1.0km 広がっているのを確認しました。また、赤外熱映像装置による観測では、変色域でやや温度の高い領域を確認しました。これらの領域は火砕流の痕跡の可能性があります。火口内の状況は噴煙のため不明ですが、乳白色の噴煙が最高で火口縁上 800m まで上がっているのを確認しました。

### ・降灰の状況（図 4）

本日実施した現地調査及び聞き取り調査によると、火口より西側の熊本県北部から福岡県の一部で降灰を確認しました。

1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、九州大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。



図 1 阿蘇山 中岳第一火口付近の状況  
火口周辺で変色域が認められ、南東方向に約 1.3km、北東方向に約 1.0km 広がっているのを確認しました。

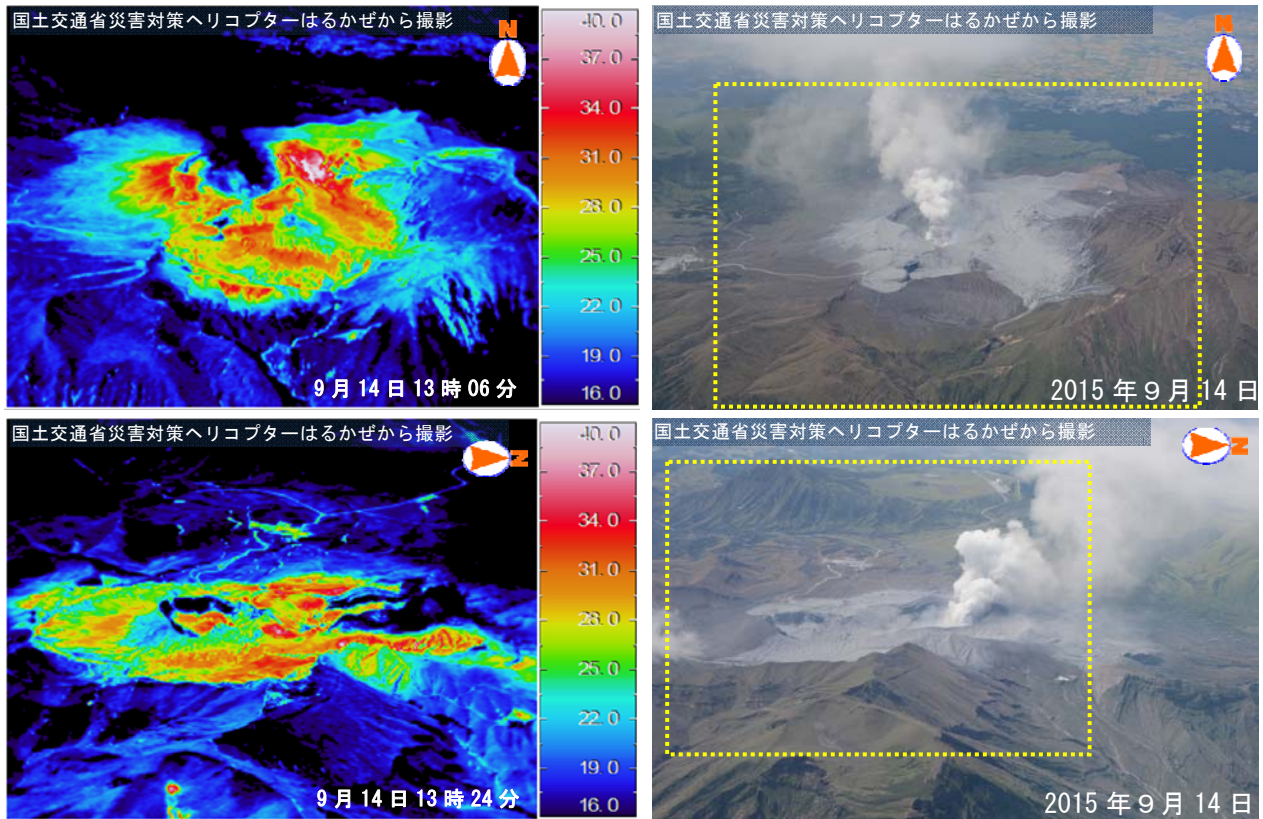


図 2 阿蘇山 中岳第一火口付近の状況  
(右写真の黄色破線は熱画像の撮影範囲を示しています。)  
火口周辺でやや温度の高い領域を確認しました。



図 3 阿蘇山 火口周辺の変色域  
中岳第一火口周辺で変色域が認められ、南東方向に約 1.3km、北東方向に約 1.0km 広がっているのを確認しました。

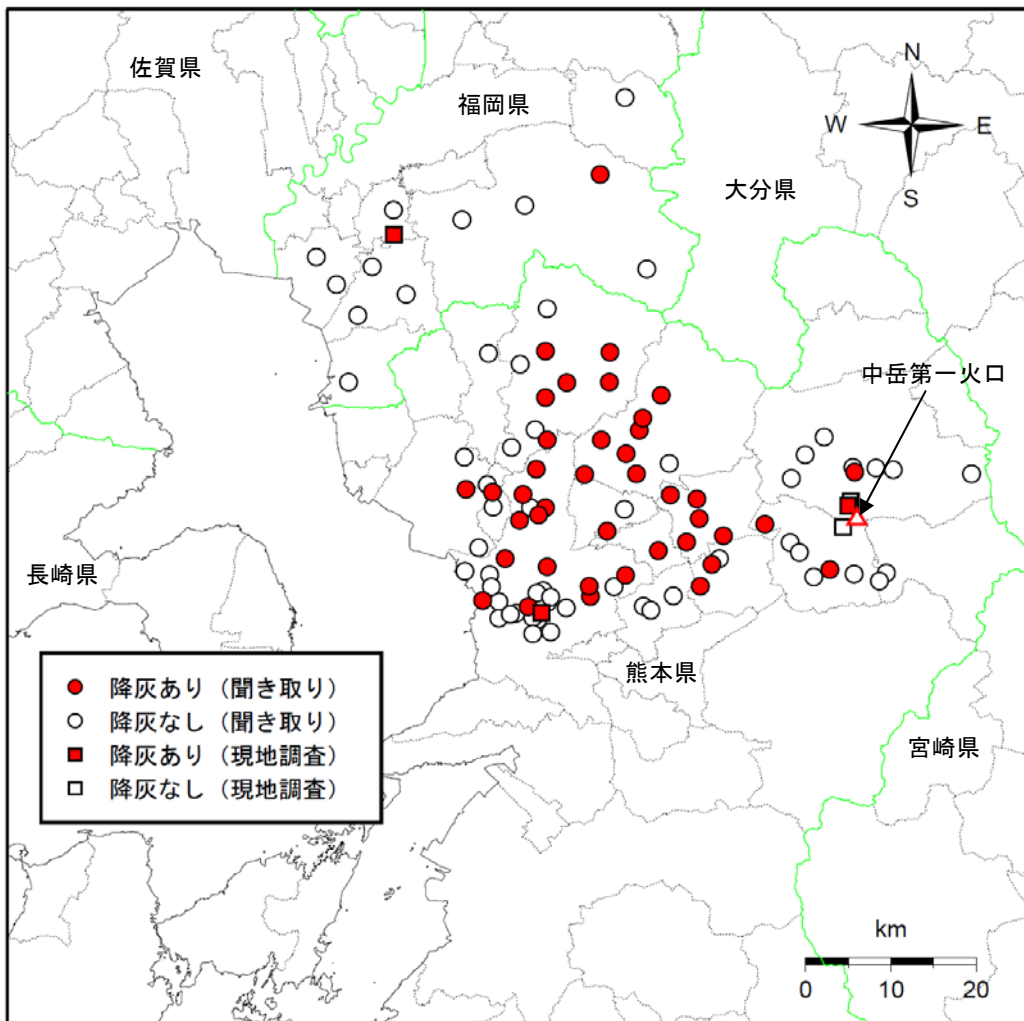


図4 阿蘇山 降灰の状況

本日実施した現地調査及び聞き取り調査によると、火口より西側の熊本県北部から福岡県の一部で降灰を確認しました。